

作品介绍⑬

「ラプンツェル」

ジェニファア・スタインカンブ作

今回紹介する作品はアメリカ出身のジェニファア・スタインカンブ（1958年生まれ）によるビデオ・アニメーションです。スタインカンブはビデオやCG（コンピュータ・グラフィックス）など最先端のテクノロジーを駆使した作品を発表しています。

作品タイトルの「ラプンツェル」とはグリム童話の一つで、日本では「かみながひめ髪長姫」というタイトルでも知られています。魔女によって高い塔に閉じ込められた少女ラプンツェルが、自慢の長い髪を垂らして助けにきた王子を昇らせる、というストーリーを記憶しているかとも思われます。ラプンツェルの母は、魔女の庭に咲く



「ラプンツェル」

花や薬草を採ろうとした罰で、塔に娘が閉じ込められてしまったのです。風に揺らぐ「魔性の花」は、まるでラプンツェルの髪のようにゆらゆらと時には激しく、時には妖しくそよぎます。自然ではありえない激しい動きはCGで作られており、見る人にさまざまなストーリーを喚起させます。

この作品は企画展示室と共有になっており、企画展で使用しているときは見ることでできない作品です。

作品介绍⑭

「メモリー・イン・ザ・ミラー」

キム・チャンギヨム作

この作品は、韓国出身のキム・チャンギヨム（1961年生まれ）によるものです。

タイトルのとおり、薄暗い部屋の真ん中には大きな鏡が取り付けられ、傍らには水槽や時計が置かれています。人の影が入れ替わり立ち替わり現れて鏡の前に立ち、そして消えていきます。物憂げに身づくろいをす



「メモリー・イン・ザ・ミラー」

る若い女性、思い悩んだそぶりを見せる男性など、哀愁を帯びたさまざまなワンシーンが繰り広げられます。しかし、人も水槽の魚も、みな時間の経過とともに闇の中に消え、それは光の幻影が作り出したものに過ぎないと気付かされます。現実と虚構が交差し、見る人を不思議な世界に誘う作品です。

キムは、「水影シリーズ」と呼ばれる、床に置かれた水鉢に人が水面を覗き込むような映像を投影した作品など、映像と実存する立体物とを組み合わせた独特の映像表現で知られています。2007年2月には国際芸術センター青森で個展も開催しています。

この作品のクライマックスは満開の桜吹雪の下、ひとり佇む和服姿の女性です。この作品は、現代人の内面を写す鏡なのかもしれません。鏡の中の人と向き合うとき、あなたは何を語りますか？

問い合わせ先

現代美術館 (☎) 011-271-1127